

もう一つの家族と共に安心していきいきと暮らせる木曽の家



私たちは今回の設計業務にあたって木曽寮移転改築基本計画から現状の問題点、進むべき方針を読み解くことから始めました。そこから以下4つの課題が浮かび上がってきました。

私たちはこれらの課題を解決するためこれまでの豊富な実績を活かし、将来に渡り使い続けることができる、誰もが使いやすい施設を提案します。

本設計業務の課題

介護業界の人手不足により最小限のスタッフで見守りを行う必要があること

老朽化や修繕・光熱費がかかる設備仕様によりコストがかさんでいること

隣接上松荘との共同運営化により経費削減を目指す計画となっていること

浸水想定区域・土砂災害警戒区域のため災害に強い造りが必要であること

5つのコンセプト

- 1 連携して共に生きる施設
- 2 敷地特性を活かしたシンプルで明快な施設
- 3 すべての人が使いやすい施設
- 4 一時避難もできる災害に強く安全な施設
- 5 建設・維持管理コストを縮減する施設

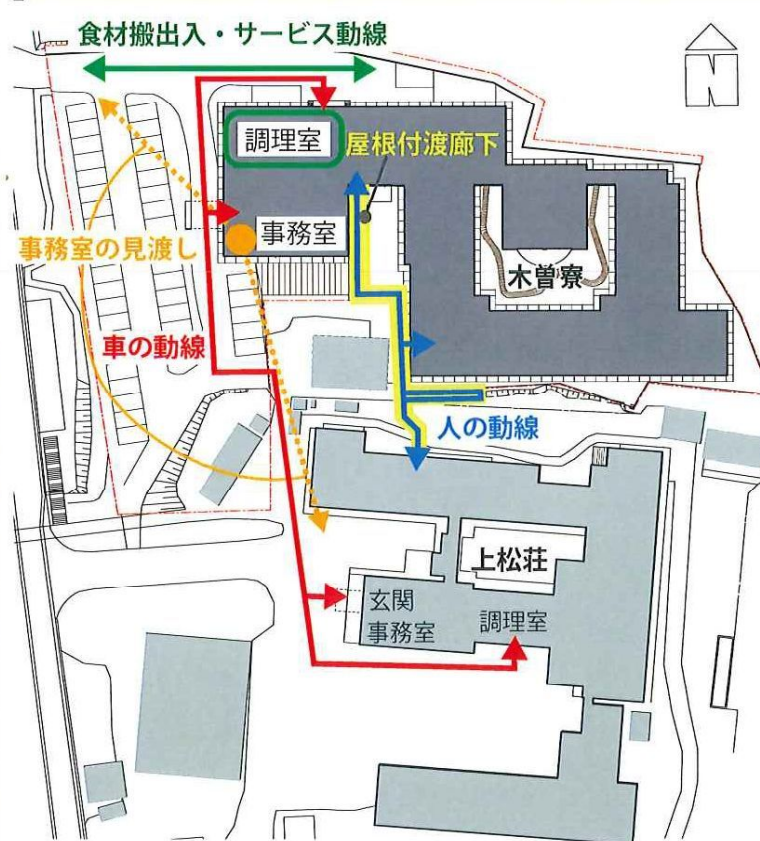
1 連携して共に生きる施設

共生する施設として一体感をもたせる

- 共同運営する上松荘を含めた全体が一体的な施設となるよう計画します。屋根は上松荘と同じ切妻形状とし外壁の色彩をそろえるなど外観からも一体感を感じさせる建物とします。



上松荘と連携しやすい動線計画



①相互訪問しやすいルートで建物間をつなぐ

- 木曽寮と上松荘の間は、上足で行き来できる屋根付き渡り廊下でつながります。
- 職員動線短縮による業務の効率化と、入所者の相互利用促進をはかります。
- それぞれの玄関と調理室間を車で最短で行き来できる通路を設けます。
- 利用者が日常的に木曽寮を利用することで災害時のスムーズな避難につなげます。

人の動線（屋根付き渡り廊下）
車の動線（アクセス通路）

②食材搬出入のスムーズな動線計画

- 調理室は敷地出入口に一番近い位置で搬出入のしやすさに配慮します。
- サービス動線をまとめ、十分なスペースを確保します。

食材搬出入・サービス動線

③2つの施設を見渡せる事務室配置

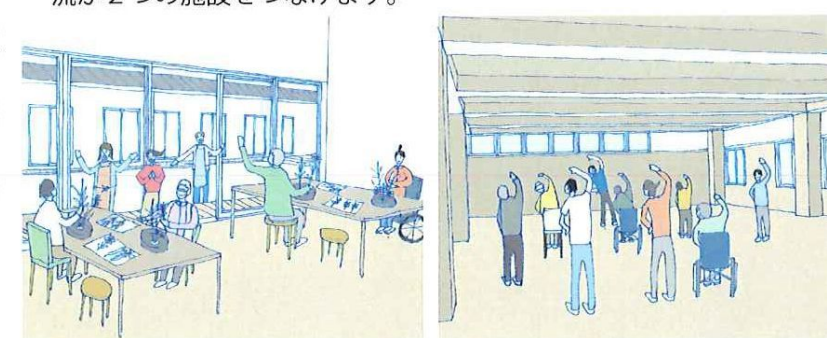
- 駐車場や玄関の来客のみならず上松荘の訪問者まで、すべて見渡せる場所に事務室を配置します。

事務室の見渡し範囲

課題（4）共生サービスが図れる施設

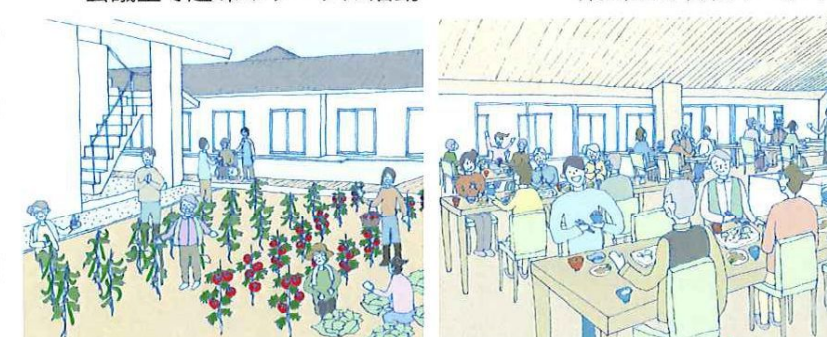
高齢者と障がいを持った方が共に利用できる場を設ける

- 木曽寮の皆さんと上松荘の皆さんと一緒に利用できる場所を各所に設けます。上松荘の方々にとっても活動の場が広がり、ここでの交流が2つの施設をつなげます。



会議室で趣味のサークル活動

集会室で各種イベント



家庭菜園で野菜作り

食堂や中庭を利用した昼食会